

小・中・高・特 合同

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

教育課題

(オリンピック・パラリンピック教育)

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究のねらい	1
III	研究内容の概要（研究構想図）	2
IV	研究の内容	3
1	基礎研究	3
2	調査研究	7
3	授業研究	14
V	研究の成果と課題	
1	研究の成果	24
2	今後の課題	24

研究主題

オリンピック・パラリンピックへの参画意識を高め、 共生社会を目指す教育の在り方

I 研究主題設定の理由

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日)において、「2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を、スポーツへの関心を高めることはもちろん、多様な国や地域の文化の理解を通じて、多様性の尊重や国際平和に寄与する態度や、多様な人々が共に生きる社会の実現に不可欠な他者への共感や思いやりを子供たちに培っていくことの契機ともしていかななくてはならない。」と示された。

これから児童・生徒たちが活躍する未来の社会について、同答申では「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており」、「成熟社会において新たな価値を創造していくためには、一人一人が互いの異なる背景を尊重し、それぞれが多様な経験を重ねながら、様々な得意分野の能力を伸ばしていくことが、これまで以上に強く求められる」としている。このような中で、オリンピック・パラリンピック教育は、オリンピック・パラリンピック精神を学ぶことで、児童・生徒の心や行動の変容を期待するとともに、国際的な視野をもって世界の平和に向けて活躍できる人材を育成し、求められる社会の将来像を実現しようとするものである。

例えば、東京都オリンピック・パラリンピック教育(以下、「本教育」と表記。)では、年齢、国籍、文化の違いや障害の有無などにかかわらず、あらゆる人々が互いの人権を尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会の形成を目指している。そのためには、「東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議最終提言」(平成 27 年 12 月)で示された、「ボランティアマインド」と「障害者理解」の資質を育むことは極めて重要である。これらの資質を育むことで、生活や社会の中の課題解決に向けて他者と協働しつつ主体的に取り組む態度や、多様性の尊重、公德心の育成・向上を図ることができる。これらの資質は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「東京 2020 大会」と表記。)に向けて児童・生徒に身に付けさせるだけでなく、大会後の日本社会全体と国際社会を担う児童・生徒のレガシーとなることが期待される。

本研究では、このような状況を踏まえ、本教育の充実に資するよう、「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針に基づいた実践事例の検討及び実践を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを行うこととし、研究主題を「オリンピック・パラリンピックへの参画意識を高め、共生社会を目指す教育の在り方」とした。

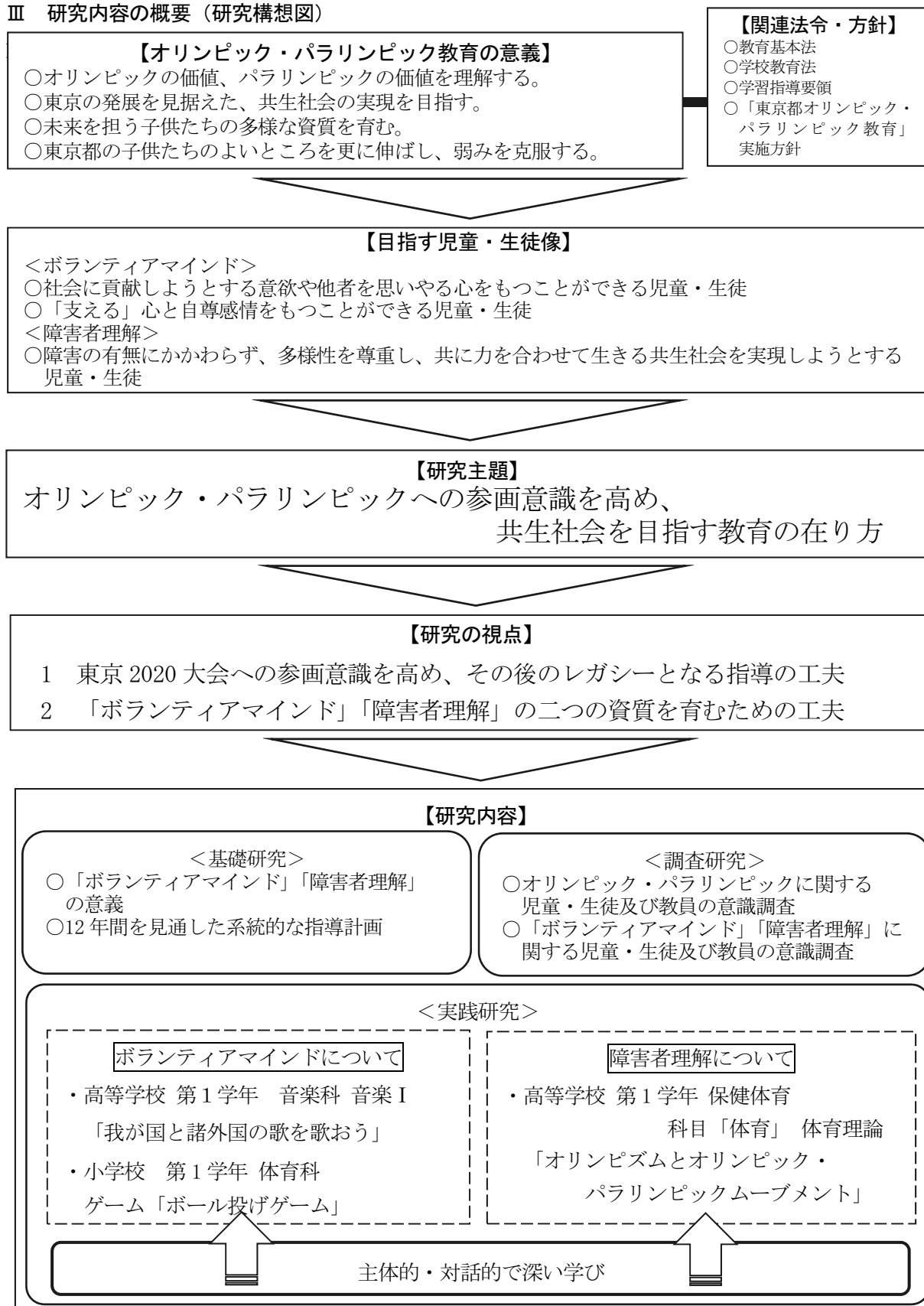
II 研究のねらい

本研究では、オリンピック・パラリンピック教育を充実させるため、新学習指導要領の視点を踏まえながら、既存の教科や領域の学習において実践できる、小学校 1 年生から高校 3 年生までの 12 年間の指導計画や、実践事例を明らかにする。

また、児童・生徒がオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高め、それらの精神をよく

知り、身に付け、主体的に行動できる力を育むことをねらいとした、具体的な授業の展開・改善に取り組み、その方策を提示する。

Ⅲ 研究内容の概要（研究構想図）



Ⅳ 研究の内容

1 基礎研究

(1) 「ボランティアマインド」の資質の捉え方と12年間を通して育まれる児童・生徒の姿

ア 「ボランティアマインド」の資質の育成

少子高齢化が一層進むこれからの時代、共生社会の実現に向け「ボランティアマインド」の資質を育む必要がある。本部会では「ボランティアマインド」を、自分ができることを自分の意思で周囲と協力しながら行おうとする精神と捉え、その資質として「社会貢献の意欲」と「他者を思いやる心」という二つの観点を設定した。また、この資質は教育活動の全てで育まれるものであると考えた。

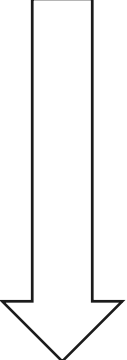
「社会貢献の意欲」とは、自分の周囲にある環境の整備や地域行事の運営等への参加意欲、国内外スポーツ大会への主体的な参画意識の向上を指す。

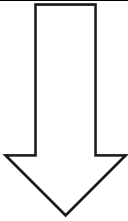
「他者を思いやる心」とは、特に「支える」活動を通して育まれた、思いやりをもって主体的に他者に関わろうとする精神を指す。

以上の二つの観点を踏まえて、児童・生徒に「ボランティアマインド」の資質を育むことで、共生社会の実現につながっていくと考えた。

イ 「それぞれの発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿」と「12年間を見通した指導計画例」

【①：社会貢献の意欲 ②：他者を思いやる心 □：教科名 「」：単元名 ☆：目指す児童・生徒の姿】

学年	目指す姿	①社会貢献の意欲	②他者を思いやる心
小1	①身近な集団に参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす児童 ②誰に対しても思いやるの心を持ち、相手の対場に立って親切にできる児童 	道「おてつだい」 ☆すすんで家族の役に立とうとする児童	体「的あてゲーム」 ☆友達と励まし合って楽しくゲーム遊びをする児童
小2		道「いつでもどこでも」 ☆身の回りや地域を自分からきれいにしようとする児童	国「うれしいことば」 ☆言葉遣いの大切さを理解する児童
小3		道「あいさつめいじんになろう」 ☆自分から挨拶や関わりをもてる児童	国「てがみのかきかた」 ☆身の回りの人たちに感謝の気持ちをもてる児童
小4		生「まちたんけんをしよう」 ☆自分の街のことを紹介しようとする児童	音「にじの歌に手話をつけて歌おう」 ☆様々な人に思いを伝えられる児童
小5		国「ローマ字の書き方を知ろう」 ☆様々な国の人へ自分のことを伝えようとする児童	道「大そうじ」 ☆皆で使う場所を大切にしようとする児童
		総「オリンピック調査隊」 ☆自分の関わり方を考えることができる児童	総「地域高齢者施設への訪問」 ☆様々な立場の人への接遇の仕方を考える児童
		道「心と心のあくしゅ」 ☆相手のことを思って行動する児童	国「よりよい話し合いをしよう」 ☆相手の考えを受け止められる児童
		社「世界とつながる東京」 ☆スポーツ等で多様な人々が関わるための工夫を調べ考える児童	国「だれもががっかり合えるように」 ☆誰もがよりよく関わり合うことについて、自分の課題をもてる児童
		社「これからの食料生産」 ☆これからの食料生産について考えをもつ児童	道「最後のおくりもの」 ☆相手の立場に立って親切にする心をもつ児童
		国「明日をつくるわたしたち」 ☆自分たちの生活をよりよくしようとする児童	

小6		国「未来がよりよくあるために」 ☆未来の社会に対して、自分に何ができるかを考え、提案できる児童 学「オリンピックが目指すもの」 ☆オリンピック・パラリンピック精神を理解し、東京2020大会への参画の仕方を考える児童	社「私たちの暮らしと日本国憲法」 ☆日本国憲法の精神を理解し、国民すべてに平等に保障されている権利を考える児童 道「ブランコ乗りとピエロ」 ☆広い心をもって、様々な立場の人々に接しようとする児童
中1	①自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努めることができる生徒 ②温かい人間愛の精神を深め、他者に対し、思いやりの心をもつ生徒	体「運動やスポーツへの多様な関わり方」 ☆東京2020大会への自身の多様な関わり方について考える生徒	道「もう一つのゴールネット」 ☆強い意志をもち、生きることを通して他者の思いを尊重することができる生徒
中2		社「アジア初のI O C委員」 ☆日本へのオリンピック招致から東京2020大会への自身の関わり方を考えることができる生徒 英「世界が注目するクールジャパン」 ☆日本の良さについて、英語を使って自分から説明しようとする生徒	道「これ以上頑張れないって平気な顔で言うな」 ☆支え合いながら、よりよい生活を考え、行動する生徒
中3		理「化学変化と電池」 ☆東京2020大会の環境対策について考え、行動しようとする生徒 体「文化としてのスポーツの意義」 ☆スポーツの文化的意義や役割を知り、東京2020大会への参画の仕方を考える生徒	道「加納治五郎とオリンピック」 ☆国際理解の精神と国際貢献について考えることができる生徒
高1	①働くことを通して社会貢献し、主体的に社会に参画する生徒 ②支え、支えられる立場を考え、他者を思いやる心を持ち、社会に貢献しようとする生徒	英表I「助動詞（丁寧な表現）」 コ英I、II 「道案内&日本の文化習慣を調べて発表」 ☆「おもてなし」の心や態度を身に付けた生徒 コ英I、II「震災時の対応」 ☆ボランティア活動に主体的に取り組み、思いやりの精神をもつ生徒	音I「合唱 我が国と諸外国の歌を歌おう」 ☆他者と支え合い、豊かな情操をもつ生徒
高2			
高3			
特別支援		作業学習「区役所の窓清掃」 ☆支えられる側から支える側の活動を自ら行う生徒 ☆自分のできること、役割を確認することができる生徒	

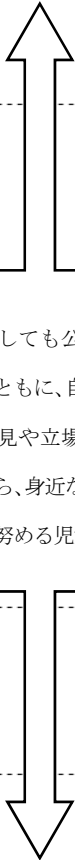
(2) 「障害者理解」の資質の捉え方と12年間を通して育まれる児童・生徒の姿

ア 「障害者理解」の資質の育成

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、東京2020大会の基本コンセプトとして「世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会を育む契機となるような大会とする」と位置付けている。また、国際パラリンピック委員会（以下、「IPC」と表記。）も、目指す究極のゴールを、「パラリンピックムーブメントの推進を通してインクルーシブな社会を創出すること」と位置付けている。つまり、本教育における重点的に育成すべき五つの資質のうち、「障害者理解」の資質を育むことは、共生社会に視点を向ける起点となり、実現につながるものである。

そこで、本研究ではIPCが大会運営における原則として策定した「アクセシビリティガイド」（平成25年6月）を基に、「公平」「尊厳」「機能性」の三つの観点から「障害者理解」の資質の具体的な姿を捉えた。これら三つの観点で児童・生徒に様々な力を身に付けさせ、実践的な態度を形成していく指導計画を目指した。これらは、短期的・集中的ではなく、12年間にわたる系統的・横断的な教育活動が重要であると考えている。

イ 「それぞれの発達段階に応じた目指す児童・生徒の姿」と「12年間を見通した指導計画例」

	目指す姿	障害者理解の資質（「公平」「尊厳」「機能性」）を育むための学習活動の例		
小1	 誰に対しても公平に接するとともに、自分と異なる意見や立場を尊重しながら、身近な集団の充実に努める児童	生 「みんなであそぼう」 ☆誰もが楽しめる遊びづくりを通して、みんなが参加するための工夫を考える児童	生 「自分でできることをしよう」 ☆自分のできることを考え、自己理解を深めていける児童	道 「あたにかいい心で親切に」 ☆身近な人に温かい心で接し、親切にすることの大切さに気付いている児童
小2		生 「大きくなった自分」 ☆成長とともにできることが増えてきたことに気付いたり、友達のよさを改めて考えたりする児童		道 「およげないすさん」 ☆友達のことを考えて遊ぶことの楽しさやよさに気付いている児童
小3		社 「まちたんけん」 ☆地域には様々な人が住み、支え合いながら暮らしていることに気付く、理解している児童		道 「心と心のあく手」 ☆自分の思いだけでなく、相手の立場に立って考えることが大切であることに気付いている児童
小4		国 「だれもがかかわり合えるように」 ☆障害のある人が社会で生きるために環境の工夫があることを理解している児童		道 「口で歩く人」 ☆障害の有無にかかわらず、人との関わりを大切にしたい生き方について考える児童
小5		総 「パラリンピックについて調べよう」 ☆パラスポーツ体験を通してパラリンピックへの理解をしている児童		道 「心にうったえる音楽を目指して―梯剛一―」 ☆障害の有無にかかわらず、希望と勇気をもって努力する大切さに気付いている児童
小6		社 「日本の歴史」 ☆パラリンピアンが活躍できるよう大会運営の改革に努めたことを理解している児童	道 「真海のチャレンジ―佐藤真海―」 ☆障害の有無にかかわらず、目標をもって生きる喜びについて考える児童	道 「明日をめざして」 ☆相手の立場に立って考え、誰に対しても温かい心で接しようとする児童

中 1	誰に対しても公平に接するとともに、それぞれのものの見方や考え方がることを理解し、よりよい社会の実現に努める生徒	英 「Sports for Everyone」 ☆障害者スポーツについて知り、「共生」について考える生徒	道徳授業地区公開講座 「障害者アスリートの講演」 ☆パラスポーツの魅力や障害の有無にかかわらず、前向きな生き方について触れ、自己の生き方や他者との関わり方について考える生徒	
中 2		英 「Universal Design」 ☆誰もが住みやすい社会を目指したユニバーサルデザインのよさについて理解している生徒	道 「義肢装具士 一臼井二美男」 ☆義肢装具士の生き方について触れ、パラスポーツを通した「共生」について考える生徒	文化祭 「義足のランナー」 ☆障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツを楽しめる環境づくりを目指した人物の半生をもとに、自己の生き方を考える生徒
中 3		英 「Athlets and Languages」 ☆佐藤真海さんの大会招致のスピーチを聞き、パラスポーツの魅力を感じている生徒	公 「私たちと政治」 ☆「合理的配慮の提供事例集」を参考に障害者理解を深め、「平等権」を踏まえた人権意識の高まった生徒	体 「スポーツを通しての文化の交流」 ☆パラスポーツの体験を通して、運動のもつ魅力に改めて気付いている生徒
高 1	人と人が支え合っていく重要性を理解し、社会的現実と照らし合わせ、誰もが安心して生活できる社会の実現に向けてより良い生き方を主体的に選択し、行動できる生徒	体 「オリンピック・ムーブメントとドーピング」 ☆オリンピズムの価値を知り、共生社会の実現に向けた生き方を考え、自分にできることの実践につなげていく生徒	人間と社会 「支え合う社会」 ☆支え合う社会を築くために、どのような考えや生き方をしていくことが大切か自己を見つめ、生活につなげている生徒	
高 2		体 「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」 ☆運動やスポーツを行う際には、周囲の環境に配慮し、安全に取り組む必要性を理解し、多くの人が楽しめる工夫について考える生徒	現 「こころ」 ☆他者との関係性の中で自己理解を深めていく姿を表す、すぐれた文章表現をもとに自分自身の自己理解を深めている生徒	
高 3		体 「豊かなスポーツライフの設計の仕方」 ☆運動やスポーツは周囲の環境への配慮がなされていることに気付き、それらが生涯スポーツとなるために必要なことを理解している生徒	人間と社会 「人間と社会 ～これからの生き方を考える～」 ☆一人一人が自分らしく充実した人生を生き、より豊かな未来を築く視点として「共生社会の実現」を考える生徒	
特別支援		☆様々な体験や学習を通して自己理解を深め、社会に参画する生き方について考える生徒	☆他者との関わりの中で相互に理解することの大切さに気付き、地域や社会の一員として、自分のできることについて考え、実践につなげていく生徒	

「公平」 個人の機能的能力に関係なく、同じ体験等の機会が得られることの大切さに気付く。	「尊厳」 誰であっても個人を尊重し、名誉を守ろうとする。	「機能性」 個人が最大限の力を発揮できるよう配慮された環境づくりについて考える。
「障害者理解」の資質 障害の有無にかかわらず、全ての人々が同じ社会に生きる人間として、互いに正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていく力を身に付ける。 (多様性を尊重し、障害を理解する心のバリアフリー)		

2 調査研究

(1) 調査のねらい

東京都オリンピック・パラリンピック教育に対する教員及び児童・生徒の意識調査を行い、現状と課題を明らかにすることにより、本教育の充実と推進に寄与する

(2) 調査内容

「東京都オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート」、「児童・生徒の障害者理解、ボランティアマインドに関するアンケート」により、各校の取組状況や、児童・生徒の実態を調査する。

(3) 調査概要

調査期間	平成 29 年 8 月から 9 月まで
調査対象	研究員所属校の教員（452 名） 研究員所属校の児童・生徒（2,074 名）
調査方法	質問紙法

(4) 教員向け調査項目及び結果

ア オリンピック・パラリンピック教育で、効果を高めるために、重点的に行っている授業・活動はどれですか。（複数回答可）

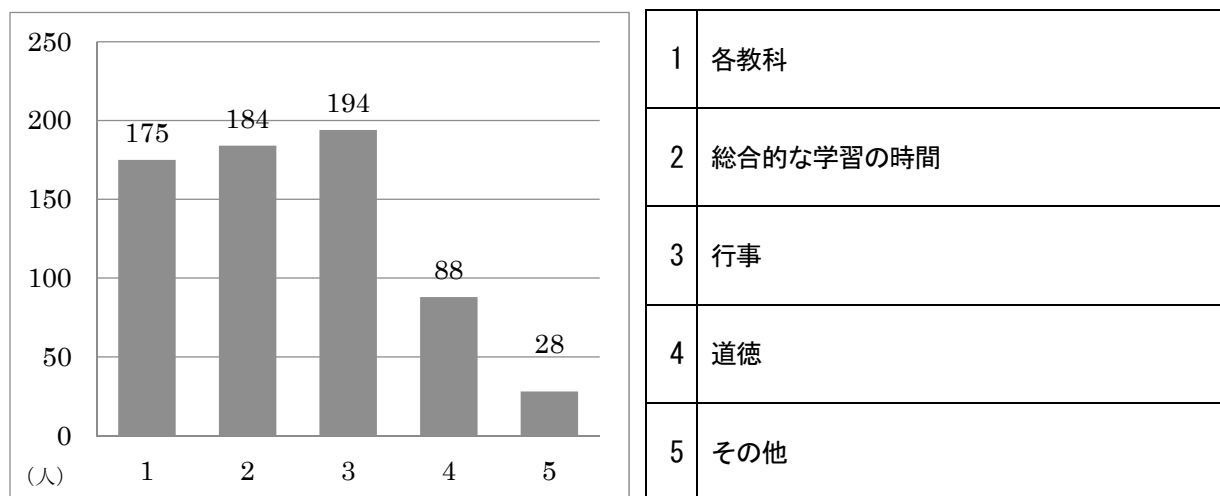
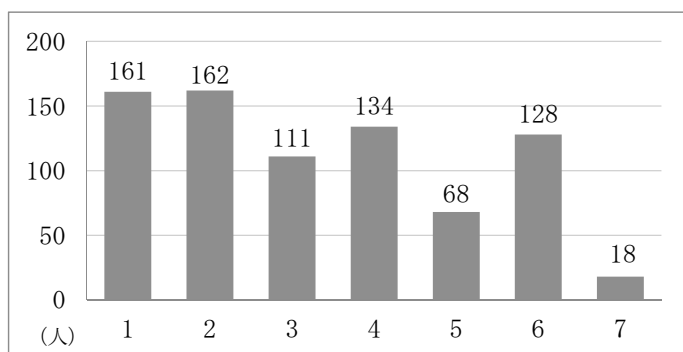


図 1

行事、総合的な学習の時間、各教科の順に多く、道徳はそれらの半数程度であった。小学校では行事、中学校・高等学校・特別支援学校では各教科や総合的な時間の回答が多かった。

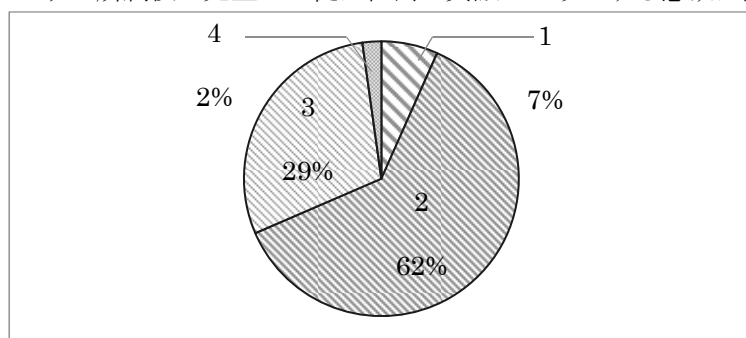
イ オリンピック・パラリンピック教育を通して、児童・生徒にどのような力が付いたと感じますか。(複数選択可)



1	オリンピック・パラリンピックの精神
2	スポーツ志向
3	ボランティアマインド
4	障害者理解
5	日本人としての自覚と誇り
6	豊かな国際感覚
7	その他

オリンピック・パラリンピックの精神やスポーツ志向に比べ、ボランティアマインドや障害者理解の回答は低い傾向であった。日本人としての自覚と誇りの回答は最も低かった。

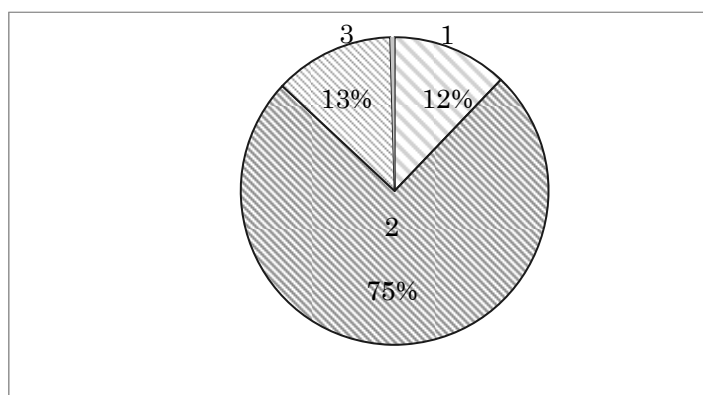
ウ 所属校の児童・生徒は社会に貢献しようとする意欲は高いと感じますか。



1	とても感じる
2	やや感じる
3	あまり感じない
4	感じない

「感じる」という回答の割合は、全体の約 70%であった。校種による回答割合の差は少なかった。

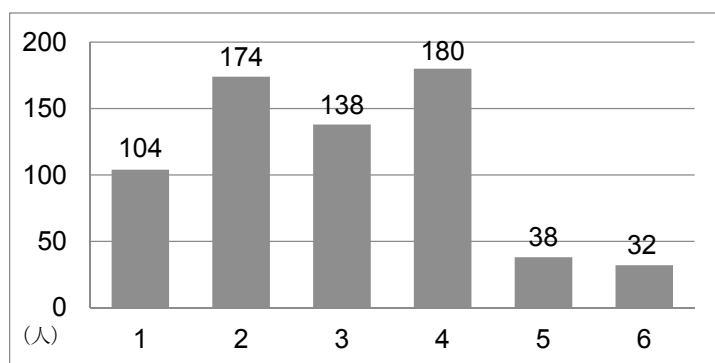
エ 所属校の児童・生徒は他者を思いやる心が育っていると感じますか。



1	とても感じる
2	やや感じる
3	あまり感じない
4	感じない

「感じる」という回答の割合は、全体の約 90%であった。特に、特別支援学校においては、他校種に比べ「感じる」割合が高くなっていた。「感じない」の回答はなかった。

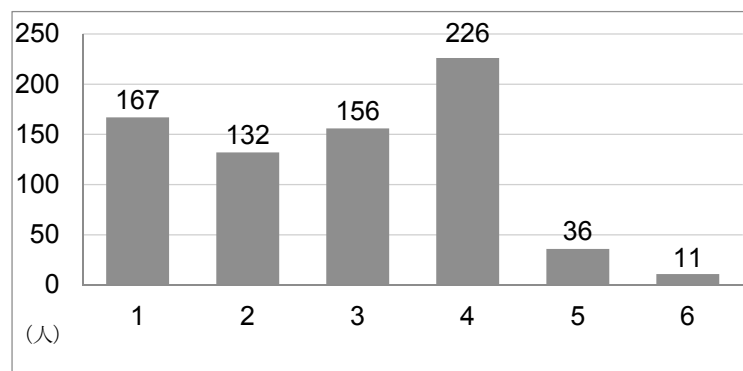
オ 社会貢献に関する授業をどの時間に、重点的に行っていますか。(複数回答可)



1	各教科
2	総合的な学習の時間
3	特別活動
4	道徳
5	その他
6	未実施

教育活動全体で、幅広く実践されていることが分かる。自由記述欄では、生活単元学習や清掃ボランティア、インターシップ体験、「人間と社会」等の様々な回答が見られた。

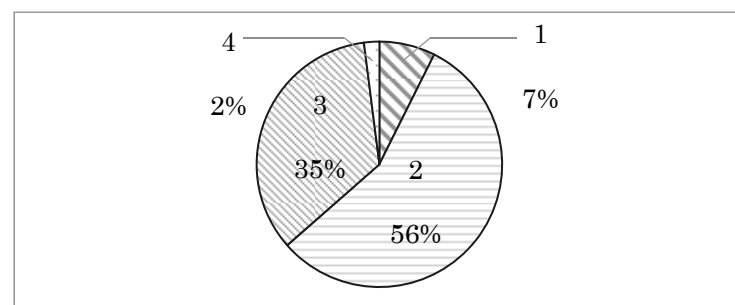
カ 他者理解に関する授業をどの時間に、重点的に行っていますか。(複数回答可)



1	各教科
2	総合的な学習の時間
3	特別活動
4	道徳
5	その他
6	未実施

道徳の時間に最も多く実践していることが分かる。高等学校、特別支援学校においては各教科・総合的な学習の時間における回答も多かった。

キ 所属校の児童・生徒の自尊感情は高いと感じますか。



1	とても感じる
2	やや感じる
3	あまり感じない
4	感じない

「感じる」という回答の割合は全体の約 65%であった。「社会に貢献しようとする意欲」や「他者を思いやる心」に比べると肯定的な回答の割合は低かった。

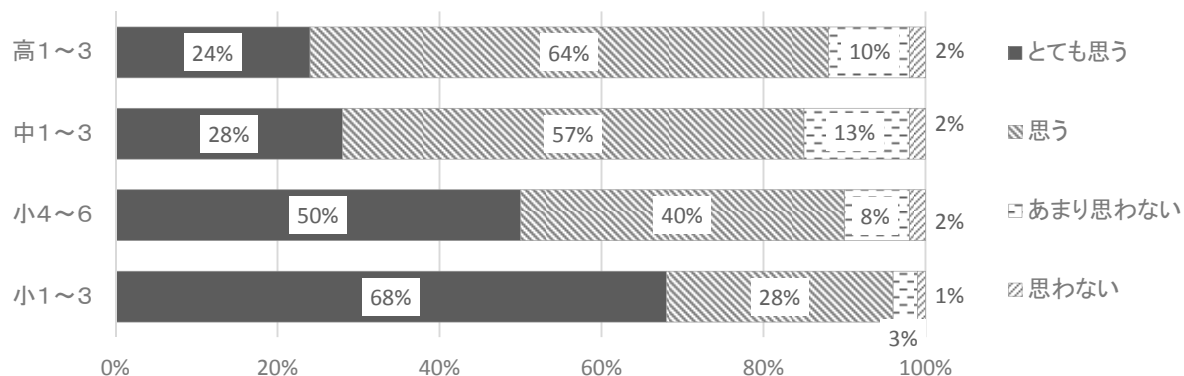
(5) 考察

本教育が全校実施となって2年目に入り、各校の特色を生かした独自の取組が実践されている。しかし、質問アの回答は、「講演会」や「単発的な活動」等、その年にのみ行われる活動が目立った。また、質問イでは「オリンピック・パラリンピックの精神」や「スポーツ志向」の回答が目立ち、共生社会実現のために本教育で重要とされている「ボランティアマインド」、「障害者理解」の資質を高めるための手だてを講じていく必要があることが見取れた。質問ウでは「社会貢献の意欲」、エでは「他者理解の気持ち」が児童・生徒によく育まれているという回答が目立ち、質問オ、カではそれらの資質を育む活動を、道徳の時間を中心に行っていることが見取れた。今後、道徳のみならず各教科でもそれらの資質を育めるような実践が必要であると考え。また、質問キでは児童・生徒の「自尊感情」の高まりを感じるという回答が目立ったが、「とても感じる」と回答した割合は「社会貢献の意欲」(62%)や「他者理解の気持ち」(75%)と比べると56%と若干低かった。

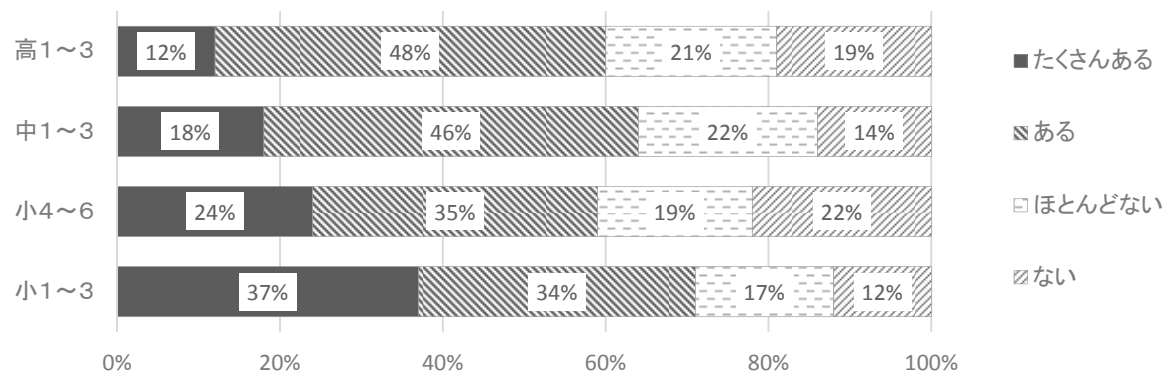
以上の結果から、共生社会の実現を目指し、「ボランティアマインド」、「障害者理解」の資質・能力の捉え方を明確にし、12年間を見通した系統的な指導計画を作成する必要があると考えた。どの地域、校種でも資質・能力を育めるよう、一般化した実践事例を提示することで、本教育の更なる充実と推進に寄与することができると考える。東京2020大会以降も共生社会の実現に向けた取組が一層充実されるよう、レガシーとなる指導の工夫をしていく必要がある。

(6) 児童・生徒向け調査項目及び結果（ボランティアマインド）

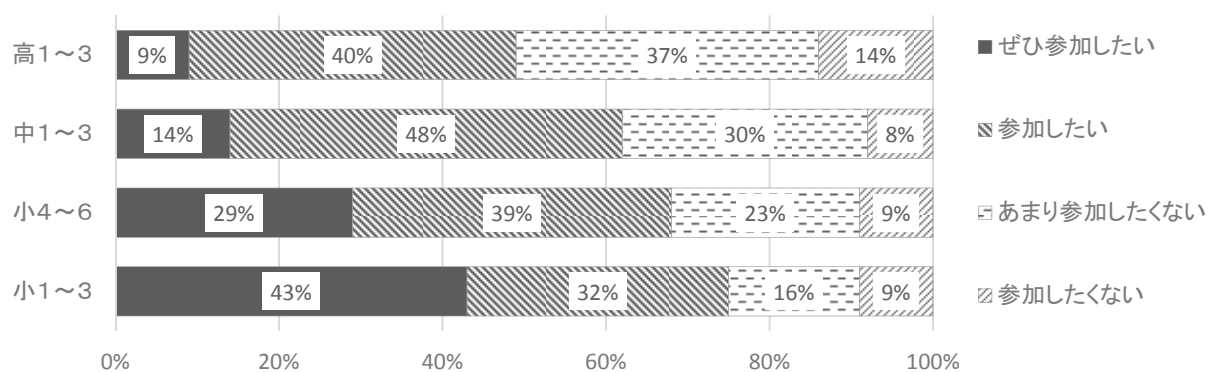
ア 困っている人を見かけたら、声を掛けたいと思いますか。



イ ボランティア活動に参加したことがありますか。



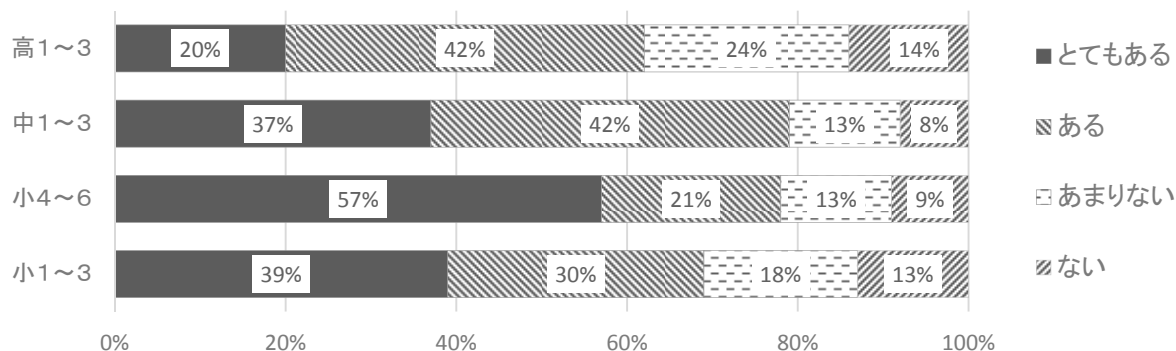
ウ 今後ボランティア活動に参加したいと思いますか。



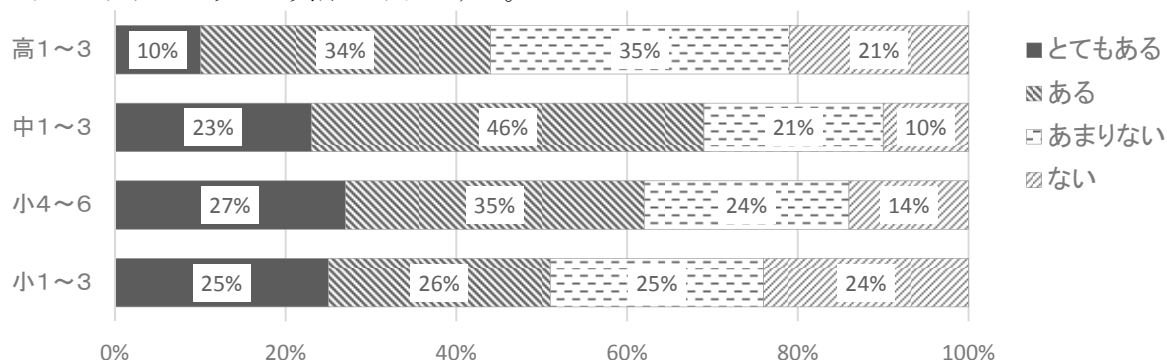
質問ア～質問ウは、社会貢献に関する内容である。現在、児童・生徒は、主に「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」で社会貢献について直接学べる機会があるものの、いずれも学年が上がるに従って、「とても思う」という回答が減少する傾向にある。このことから、12年間を見通してオリンピック・パラリンピック教育を系統立てて行い、社会貢献について学びの質を高めることは、東京2020大会後のレガシーとしての共生社会の実現にもつながると考える。

(7) 児童・生徒向け調査項目及び結果（障害者理解）

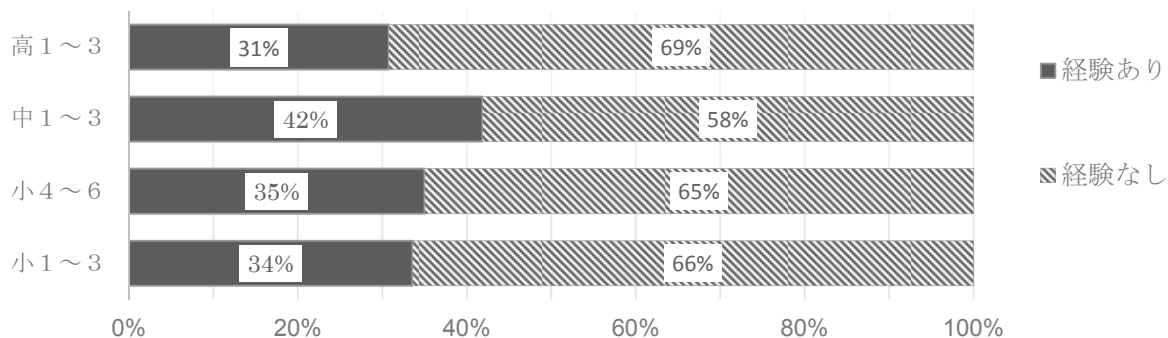
ア オリンピックに興味がありますか。



イ パラリンピックに興味がありますか。

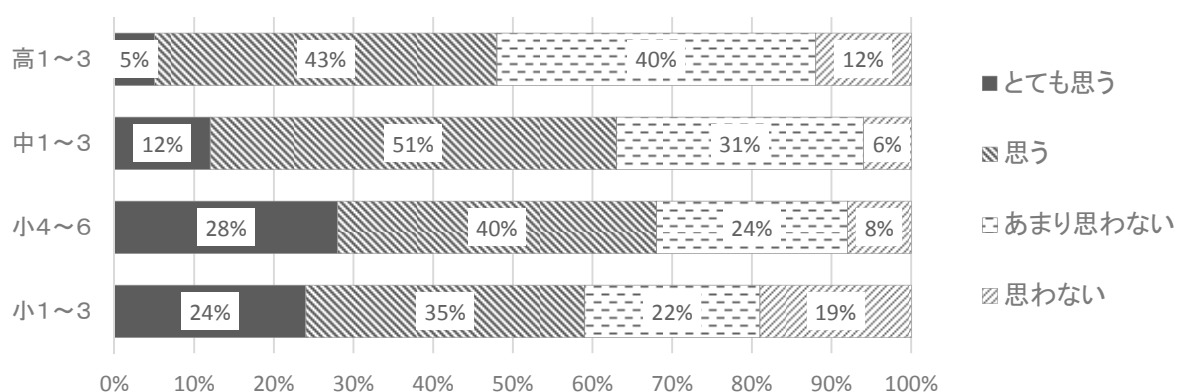


「パラリンピックに興味をもっている生徒」のうち「障害者スポーツ経験者」

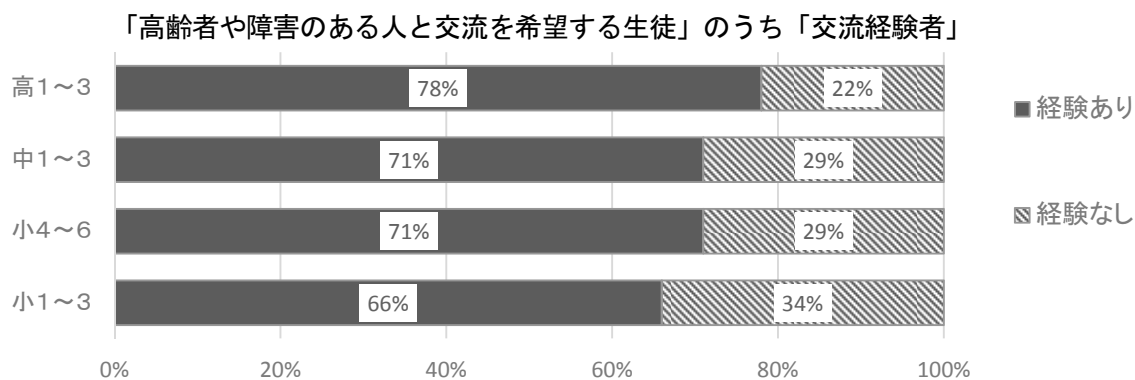


質問ア「オリンピックへの興味」は、小学4～6年生と中学生の約8割がもっているのに対し、高校生は約6割とやや低くなる傾向がある。質問イ「パラリンピックへの興味」は、最も高い中学生でも約7割にとどまり、オリンピックに比べると興味が低いことが分かる。さらに、パラリンピックに興味をもっている生徒のうち障害者スポーツ経験者の割合を確認したところ、4割弱であり、体験の有無のみが興味・関心へ結び付いているわけではないことが分かる。このことから、様々な切り口でパラリンピックについて知ることは、参画意識の向上につながると考えられる。また、学年が上がるごとに高まっていた興味・関心が、高校生になると下がっていることが分かる。この傾向を改善するために、12年間の系統的なカリキュラムの作成が有効だと考える。

ウ 高齢者や障害のある人と交流したいと思いますか。



小学4～6年生が68%と最も高く、学年が上がるにつれて意欲は低くなる。高校生に至っては交流したくないと答える生徒が上回っている。年齢が上がるにつれ意欲が低下する傾向があるため、高校生に至るまで高齢者や障害のある人について知ったり、交流したりして理解していこうとする資質を育む必要がある。そのためには系統的な指導計画に基づいた指導が必要であると考えます。



質問ウで「とても思う」「思う」と回答した児童・生徒のうち、約70%が「高齢者や障害のある人と交流した経験がある」と回答している。このことから、交流した経験が更に交流したいという意欲につながると考える。障害のある人との交流を意図的に授業に組み込むことで、交流したいという意欲を高め、「障害者理解」の資質を育むことに効果的であると考えます。

3 授業研究

(1) 研究主題に迫るための二つの視点について

ア **視点1** 東京 2020 大会への参画意識を高め、その後のレガシーとなる指導の工夫

「オリンピック憲章」には「オリンピック・ムーブメントの目的は、オリンピズムとオリンピズムの価値に則って実践されるスポーツを通じ、若者を教育することにより、平和でより良い世界の構築に貢献することである」と記されている。また、IPC も目指す究極のゴールとして、「パラリンピックムーブメントの推進を通してインクルーシブな社会を創出することである」と掲げている。このようにオリンピック・パラリンピックは、参加する競技者だけでなく全ての人のためのものである。

そこで、児童・生徒・教員の参画意識を高める本教育を実践し、大会後も長く続く教育活動として深化・発展させていくことは、東京 2020 大会以降においても望まれる「共生社会」の実現に向けて踏み出す一歩であり、東京 2020 大会を 3 年後に控えた私たちにできることのひとつであると考えた。

本研究では、共生社会の実現への見通しをもったオリンピック・パラリンピックにまつわる交流や、体験を重視した指導計画及び展開の工夫について検討を行った。これらの取組によって、児童・生徒・教員のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まり、東京 2020 大会開催を身近に感じるものとするだけでなく、大会後も長く続くレガシーとなるような教育活動にすることを目指した。

イ **視点2** 「ボランティアマインド」「障害者理解」の二つの資質を育むための工夫

主題設定の理由で述べたように、「ボランティアマインド」「障害者理解」の二つの資質を児童・生徒に育むことは、我が国が目指している共生社会の実現に不可欠である。

本研究では、まず「ボランティアマインド」「障害者理解」の二つの資質を育んでいくための観点を設定した。「ボランティアマインド」は、「社会貢献の意欲」「他者を思いやる心」の二つの観点から捉え育んでいくことが重要であり、「自尊感情」の高まりとともに醸成されていくと考えた。「障害者理解」の資質は、「公平」「尊厳」「機能性」の三つの観点から捉え育んでいくことが重要であると考えた。

次に、二つの資質における、小学校、中学校、高等学校段階での目指す児童・生徒の姿を具体的に設定した。そして、12 年間を通した本教育の中で、二つの資質を段階的、系統的に育んでいくための具体的な指導計画を設定した。その際、「ボランティアマインド」と「障害者理解」の二つの資質の育成は、全ての教育活動を通して行われるため、カリキュラム・マネジメントとともに考えていくものとする。

(2) 実践授業

実践1 ボランティアマインド（小学校第1学年 体育科）

1 単元名 ゲーム（ボール投げゲーム）「バンバンゲーム とよにしピック」

2 単元の目標

- (1) ゲームを楽しく行うための簡単なボール操作や動きを身に付けることができるようにする。【技能】
- (2) ゲームにすすんで取り組むとともに、順番やきまりを守り、勝敗を受け入れて仲よく運動をしようとしたり、運動する場の安全に気を付けようとしたりできるようにする。【態度】
- (3) 簡単なゲームの規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。【思考・判断】

3 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
・ゲームにすすんで取り組もうとしている。 ・運動の順番やきまりを守り、勝敗の結果を受け入れて、友達と仲よく運動しようとしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ・ゲームを行う場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。	・ボールゲームの行い方を知るとともに、得点の方法などの規則を選んでいる。 ・ボールゲームの動き方を知るとともに、攻め方を選んだり、見付けたりしている。	・ボールゲームでは、的に当てるゲームや簡単なボール操作の動きができる。

4 単元について

- (1) 教材について
 - ・「ボール投げゲーム」の楽しさは、大きさの違う的にボールを当てたり、的に倒したりした時に達成感、爽快感を味わえることである。
 - ・的にねらって当てたり、倒したりして勝敗を競い合う楽しさを味わうことのできる運動である。
 - ・簡単なルールを工夫しながらつくっていくことができる運動である。
 - ・的に大きさ・数の工夫、的に置き方や向きを工夫しながら、投げる技能を高めることができる運動である。
- (2) オリンピック・パラリンピック教育との関連
 - ・児童が社会に貢献しようとする意欲や他者を思いやる心など、共生社会の実現のために不可欠な要素であるボランティアマインドを醸成するとともに自尊心を高める必要性を示している。
 - ・「すすんで運動に取り組むこと」「きまりを守って、友達と仲よく運動すること」を重点項目とし、単元全体を通して「他者を思いやる心」を育む。

5 研究主題に迫るための手だて

- (1) 「オリンピック・パラリンピックへの参画意識を高めるための工夫」
 - ア 兄弟チーム（攻めのチームを審判が応援できる組み合わせ）の編成
 - イ 一人一人の役割の明確化 **主体的な学び**
 - ウ 開会式、閉会式、表彰式の実施
- (2) 『ボランティアマインド・障害者理解』の資質を育むための工夫
 - ア 道徳の時間に自分が言われてうれしい言葉、元気になる言葉、頑張れる言葉について考えさせる時間の設定
 - イ 教科横断的な授業づくり **対話的な学び**
 - 友達から言われてうれしかったこと、頑張っていたことを伝える時間を設け、日々の生活から相手を思いやる心を育む環境を意図的に設定
 - ウ 応援やアドバイスの掲示について **対話的な学び**

6 指導と評価の計画（全6時間） _____ は、オリンピック・パラリンピック教育との関連

時	学習活動	評価規準	オリンピック・パラリンピック教育における指導の視点
1	1 集合・整列・挨拶、めあての確認 <u>ゲームのルールや学習のきまりを知ろう</u> 2 準備（準備運動・場の準備） 3 わくわくタイム （ゲームを楽しむための易しい運動遊びに取り組む。） ・壁当て遊び 4 バンバンゲーム（試しのゲーム） 5 キラキラタイム（めあてに対する振り返り） 6 片付け・整理運動・振り返り・挨拶	○ゲームを行う場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 【関・意・態】	○応援でうれしかった言葉についてみんなで共有し、「キラキラタイム」につなげていく。
2	1 集合・整列・挨拶、めあての確認 <u>楽しいゲームにしよう</u> 2 準備（準備運動・場の準備） 3 わくわくタイム ・フープ通し、紙鉄砲遊び、ペットボトルスロー 4 バンバンゲーム（ゲーム①）2分×2 5 キラキラタイム（めあてに対するチームでの振り返り） 6 バンバンゲーム（ゲーム②）2分×2 7 片付け・整理運動・振り返り・挨拶	【ゲームのルール】 （時間は2分1セット、紅白玉使用、的の数は4～6） ・的が全部倒れたときや紅白玉がなくなったときは、全員で拾う。 ・時間内であれば何度でも挑戦できる。 ・ゲームをしていない兄弟チームが審判や得点、応援をする。 ○友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 【関・意・態】 ○ゲームの行い方を知り、得点の取り方を考えている。 【思・判】	○みんなで協力して役割を果たすことによって、ゲームが楽しくなることに気付かせる。
3	1 集合・整列・挨拶、めあての確認 <u>的をたくさん落とす投げ方を考えよう</u> 2 準備（準備運動・場の準備） 3 わくわくタイム ・フープ通し、紙鉄砲遊び、ペットボトルスロー 4 バンバンゲーム（ゲーム①）2分×2 5 キラキラタイム（めあてに対するチームでの振り返り） 6 バンバンゲーム（ゲーム②）2分×2 7 片付け・整理運動・振り返り・挨拶	○ゲームにすすんで取り組もうとしている 【関・意・態】 ○ねらったようにボールを投げることができる。【技】	○一緒に活動するよさについて考えさせる。
4	1 集合・整列・挨拶、めあての確認 <u>どうしたらたくさんの的を落とせるか考えよう</u> 2 準備（準備運動・場の準備） 3 わくわくタイム ・フープ通し、紙鉄砲遊び、ペットボトルスロー 4 バンバンゲーム（ゲーム①）2分×2 5 キラキラタイム（めあてに対するチームでの振り返り） 6 バンバンゲーム（ゲーム②）2分×2 7 片付け・整理運動・振り返り・挨拶	○チームでの的の当て方を考えている。 【思・判】	○ゲームや準備・片付けにおける役割での頑張りに気付かせる。 ○応援や称賛の言葉を言ったり、言われたりするうれしさを共有し、日常的な言葉遣いにつなげる。
5 （本時）	1 集合・整列・挨拶、めあての確認 <u>チームでたくさん点数をとる作戦を考えよう</u> 2 準備（準備運動・場の準備） 3 わくわくタイム ・フープ通し、紙鉄砲遊び、ペットボトルスロー 4 バンバンゲーム（ゲーム①）2分×2 5 キラキラタイム（めあてに対するチームでの振り返り） 6 バンバンゲーム（ゲーム②）2分×2 7 片付け・整理運動・振り返り・挨拶	○きまりを守り、仲よく運動することができる。【関・意・態】 ○チームでたくさん点数をとるための工夫を考えている。 【思・判】	
6	1 開会式（集合・挨拶、めあての確認、準備運動） <u>とよにしピックを成功させよう</u> 2 バンバンゲーム 3 片付け・整理運動 4 閉会式（表彰式、振り返り、挨拶）	○運動の順番やきまりを守り、勝敗の結果を受け入れて、友達と仲よく運動しようとしている。【関・意・態】 ○的に合わせてねらったようにボールを投げることができる。 【技】	○みんなのために役割を果たす喜び味わわせる。 ○表彰式のよさを感じさせ、称賛される感動を味わわせる。

7 本時の指導（6時間中5時間目）

(1) ねらい

ア きまりを守り、仲よく運動することができる。（関心・意欲・態度）

イ ゲームに合わせた攻め方を見付けている。（思考・判断）

(2) 本時の展開

時	学習内容・活動	●指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法） ☆オリンピック・パラリンピック教育との関連
1	集合・整列・挨拶、めあての確認	●前時までの学習を想起させ、学習の見通しをもたせる。
	チームでたくさん点をとるには、どうすればよいだろう。	
2	準備運動・場の準備	☆一人一役で主体的学習に関わらせる。 ●主運動で使う部位を中心に行う。（投げ方の動き） ●チーム全員で素早く協力して行っていることを称賛する。
3	わくわくタイム（主運動につながる動き） ・フープ通し ぶら下げたフープの中に紅白球を投げ入れる。（正確に投げる動き） ・紙鉄砲 様々な紙の大きさで作った紙鉄砲を鳴らす。（力強く投げる動き） ・ペットボトル飛ばし ペットボトルにロープを通し、ギャラリーめがけて投げる。（遠くへ投げる動き）	●主運動につながる易しい運動遊びに取り組みせ、楽しみながら片手投げの動作を経験する。 ●よい動きを考えられるよう言葉掛けを行う。 「フープに当たらないように投げるにはどこをねらったらいかな。」 「より大きな音を鳴らすにはどうしたらいいかな。」 「遠くまで飛ばすにはどうしたらいいかな。」
4	ゲーム① ・時間 2分×2 ・的 6個 ・ボール 紅白玉 ・的の置き方・向き C：重ねて倒すと、2つ倒せるよ。 C：向きを横にしてみたら、面白いね。 C：的の真ん中をねらうといいね。	●きまりを守って友達と仲よく運動しているか、観察し、助言、指導する。 ●すすんで友達に「応援やアドバイスの言葉」をかけている児童を称賛する。 ◇ゲームに合わせた的のねらう位置や的の置き方を考えて、ボールを投げている。【思考・判断】（観察） ☆兄弟チームで応援の役割を明確にし、周りから応援・称賛される喜びを味わう。
5	キラキラタイム C：的の真ん中をねらって投げるといいよ。 C：私は、大きい的をねらってみるから、 ○○さんは、中くらいの的をねらって投げてみて。	●友達と協力して、もっとたくさん点数をとるにはどうすればよいのかをチームで考える。 「たくさん点をとるためにどうすればいいかな。」
6	ゲーム② ・時間 2分×2 ・的 6個 ・ボール 紅白玉 ・的の置き方・向き C：みんなで考えた作戦がうまくいったよ。 C：的を固めて置いてみたら、たくさん倒れたよ。	●的の置き方や向き、投げ方を考えている児童を称賛し真似してみることを助言する。 ◇キラキラタイム（作戦タイム）で考えた攻め方をしようとゲームに取り組んでいる。【思考・判断】（観察）
7	片付け・整理運動	●使った部位を中心に、よく伸ばすよう言葉掛けをする。
8	振り返り・発表 C：みんなで考えた作戦が成功して、的をたくさん倒すことができて、ゲームが楽しかった。 C：応援を聞いて、もっと思い切り投げようと思いました。 C：兄弟チームが喜んでいて、応援している自分たちも嬉しくなりました。 C：ゲームの準備が早くできるように○○さんが一生懸命頑張っていました。	●ねらいに沿った振り返りができるように児童に言葉掛けをする。 「チームで考えた作戦はどうだったかな。」 「ゲームが楽しくできたのはどうしてなのか。」 「友達からどんな声をかけてもらえたのがうれしかったかな。」 ☆今日、友達にどんな声をかけてもらえたかを発表させる。 ☆友達と協力して、的を倒すことができたときどんな気持ちになったかを発表させる。
9	挨拶	◇きまりを守り、仲よく運動しようとしている。 【関心・意欲・態度】 *学習カード 次時がゲームの最終回となることを伝える。たくさん点的を倒すためには今までに学んできたことを生かして、応援やアドバイスし合ってチームで協力してバンバンゲームのクラス目標達成を目指すことを伝える。

8 考察

(1) 本単元において、準備運動や整理運動の場面で協力する姿が見られた。また、活動において互いに励まし合う姿も多く見られた。ボランティアマインドの資質を高めることにつながった。

(2) 児童から出された言葉は、運動面とボランティアマインドの資質に関わる面に分けて、価値付け掲示していく必要がある。

実践2 ボランティアマインド（高等学校第1学年 音楽科 音楽I）

1 題材名 「我が国と諸外国の歌を歌おう」

2 題材の目標

- (1) 我が国と諸外国の歌を歌い、楽曲の文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
- (2) 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫して合唱する。
- (3) 日本の伝統音楽の音色や奏法、旋律を知覚・感受しながらその美しさを深く味わう。

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
・我が国と諸外国の歌の特徴や文化について関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。 ・小鼓、篠笛の音色や奏法に関心をもち、表現や鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	・歌詞の内容や楽曲の背景から曲想を感じ取り、どのように音楽表現するかについて、思いや意図をもっている。 ・「さくらさくら」の雰囲気を感じながら、どのように音楽表現するかについて、思いや意図をもっている。	・声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。 ・楽曲の旋律の特徴を生かしながら、「さくらさくら」を歌唱している。	・我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

4 題材について

本題材は、学習指導要領音楽Iの4 内容の取扱い（7）「我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽から幅広く扱うようにする」の発展内容とする。「さくらさくら」（日本）、「オーソレミオ」（イタリア）、「歓喜の歌」（ドイツ）などの楽曲を歌い、曲想を歌詞の内容や楽曲の文化的・歴史的背景から感じ取り、世界の音楽の多様性を理解する。また、日本の伝統音楽を深く学習し、我が国の音楽のよさを味わう。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 「オリンピック・パラリンピックへの参画意識を高めるための工夫」 主体的、対話的な学び

- ア 東京 2020 大会に向けて「東京五輪音頭 2020」を手拍子に合わせ、楽しく歌う。この曲は、日本人に好まれる曲風で、生涯受講生が楽しく皆と声を合わせ、参画意識を高めていけるダイバーシティ音頭である。
- イ 諸外国の歌を歌い、それぞれの国の風土・文化について学習し、オリンピック・パラリンピックで世界とつながる気持ちになる。多様な文化を受け入れ、多様な文化を尊重する。
- ウ 日本の伝統音楽を学習して、日本人としてのアイデンティティ、豊かな国際感覚を身に付ける。

(2) 「ボランティアマインド・障害者理解の資質を育むための工夫」 主体的な学び

- ア 混声四部合唱曲「喜びの歌」は、シラー作詞の曲であり、人類愛を謳っている。シラーの歌詞を充分に理解させて、お互いが思いやりの心で、美しい響きを創りあげる。
- イ 盲人の最高位である「検校」の位をもち、活躍した音楽家の作品を鑑賞し、その美しさを深く味わう。

6 指導と評価の計画（全5時間）

時	学習活動	評価規準	オリンピック・パラリンピック教育における指導の視点
1・2	○東京 2020 大会に向けて世界の歌を歌い、外国の文化を理解する気持ちをもつ。 ○東京 2020 大会への参画意識を高めるためにアンケートをとり、意見交換をする。 ○イタリア歌曲の発声や歌い方の特徴を理解し、「オーソレミオ」を原語（イタリア語）で歌う。 ○ベートーベン作曲「喜びの歌」を、歌詞の内容や声部の役割を理解して、16 小節を原語（ドイツ語）で歌う。	○世界の音楽の歌の特徴や文化について関心をもち、積極的に学習に取り組む。【関・意・態】 ○他者を理解し、思いやりの気持ちで外国人と接する心を持つ。【意・態】 ○ハバネラのリズムに合わせ、楽曲の背景から曲想を感じ取り、歌う。【創】 【技】 ○シラーの詩から「喜びの歌」のテーマである人類愛を感受し、共生について深く考え、歌で表現する。【創】	○東京 2020 大会に向けての話し合いから参画意識を高め、個々にできるボランティアについて考える。 ○外国曲を歌うことで、楽曲の背景を知るとともに世界の多様性を受けられるようにする。
3・4	○ナポリの風土、文化について理解し、「オーソレミオ」を歌う。 ○混声四部合唱「喜びの歌」を全体の響きに調和させて、表現を工夫して合唱する。 ○三味線に合わせて歌う、「口三味線」を習得して、「さくらさくら」を歌う。	○歌詞が表す情景や心情をイタリア語で表現して斉唱できる。【技】 ○声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。【技】 ○三味線の音色、間の特徴を生かし、「さくらさくら」の歌詞の内容から雰囲気を感じて歌う。【技】	○東西ドイツ統一記念コンサートの第九「喜びの歌」をDVDで鑑賞し、児童から大人までが互いに支え合う人類愛の表現を感受する。
5	○1～4時までに学習した「オーソレミオ」「喜びの歌」を歌う。（復習） ○小鼓（能管）、篠笛（調）の演奏を、音色や響き、奏法、旋律等の特徴に関心をもって鑑賞する。 ○小鼓、篠笛の楽器の特徴、音色、奏法について理解する。 ○三味線、小鼓、篠笛に合わせて「さくらさくら」を歌う。	○イタリアの文化を理解して歌うことにより多様性を理解する。【創】 ○互いに支え合い、美しいハーモニーを創っていくことができる。【技】 ○一調一管の美しい響きを聴き、日本の伝統音楽のよさを味わい、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。【鑑】 ○小鼓、篠笛の音楽を形づくっている要素を知覚し、「さくらさくら」の歌唱表現につなげる。【鑑】 ○和楽器の音色、旋律、テクスチャを知覚し、「さくらさくら」の楽曲の雰囲気を感じて歌う。【創】	○イタリアでの音楽体験発表から、東京 2020 大会へのボランティアマインドへつなげる。 ○三味線、小鼓、篠笛の学習から日本人としてのアイデンティ、豊かな国際感覚を身に付ける。

7 本時の指導（5時間中5時間目）

(1) 本時の目標

- ア 我が国と諸外国の歌を歌い、音楽の多様性を理解して、豊かな情操を養う。
- イ 我が国の伝統音楽に見られる様々な音色、リズム、間、テクスチュア（音の織り合わせ）について理解して、「さくらさくら」を歌う。

(2) 本時の展開

	学習内容・活動	●指導上の留意点◇評価規準(評価方法) <u>☆オリンピック・パラリンピック教育との関連</u>
導入	1 本時の学習について確認をする。 2 指導計画1～4時間で学習した「オーソレミオ」「喜びの歌」の曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。 3 受講生の海外での体験発表により、音楽は万国共通のものであるという認識を深める。	◇楽曲のリズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、楽曲にふさわしい歌い方をしている。【技】 <u>☆音楽を通しての外国人との交流から、他者の理解、ボランティアマインドの醸成につなげる。</u>
展開	4 日本の伝統音楽である小鼓（能管）、篠笛（調）の演奏を、音色や響き、奏法、旋律等の特徴に関心をもって鑑賞する。 5 小鼓と篠笛の楽器の説明を聴き、音楽を形づくっている要素について理解する。 6 小鼓の基本的な奏法、音の出し方、掛け声のかけ方、楽器の扱い方などを理解して、小鼓の伴奏に合わせ、口三味線で歌う。 7 三味線、小鼓、篠笛の伴奏で「さくらさくら」を歌う。	◇一調一管の音色やテクスチュア、奏法などを知覚・感受しながら、日本の伝統音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【鑑】 ●小鼓、篠笛の楽器の特徴について理解し、日本の伝統音楽に関心をもつ。 ●小鼓の音色や奏法に関心をもち、その特徴を生かした旋律、リズム、間を感受し、表現を工夫して歌う。 ◇和楽器（三味線、小鼓、篠笛）の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、「さくらさくら」の楽曲の雰囲気を感受して歌う。【創】 <u>☆伝統音楽を学習した受講生の感想を通し、日本人としてのアイデンティティ、豊かな国際感覚を身に付ける意識をもたせる。</u>
まとめ	8 日本歌曲を歌い感受したことをまとめる。 東京2020大会に向けて、合唱により、お互いが支え合い、多様性を理解してボランティアマインドを醸成していく。	<u>☆諸外国の歌を通して、他者への理解を深め、支え合い、オリンピック・パラリンピックで世界とつながる気持ちをもつ。</u> <u>☆我が国の伝統文化を理解し、日本人としての誇りをもつ。</u>

8 考察

(1) 成果

- ア オリンピック・パラリンピックへの参画意識の状況を把握するために事前アンケートをとり、その結果を基に、ボランティアマインドについて話し合った。その成果があり、生徒がお互いに東京2020大会を意識して、支え合う気持ちで合唱するようになった。
- イ 和楽器の鑑賞、歌唱等の学習により、日本の伝統音楽の美しさを理解し、日本人としての誇りを持って外国人に日本の文化を伝えたいという意欲が向上した。

(2) 課題

- ア 教養を高めることにとどまらず、生涯社会貢献をしていく気持ちを育んでいくことが課題である。
- イ ボランティアマインドの醸成を目指し、お互いに「支える」という意識をもてるようコミュニケーションを図りながら、合唱指導をしていく。

実践3 障害者理解（高等学校第1学年 保健体育科）

1 単元名

科目「体育」 体育理論 「オリンピズムとオリンピック・パラリンピックムーブメント」

～東京2020大会への参画意識を高めるとともに、共生社会を目指し、障害者理解を進める発展的体育理論学習～

2 単元の目標

- (1) オリンピックやパラリンピックの価値や歴史、文化的意義について、自分の考えをまとめたり、発表したりするなど主体的に取り組むことができるようにする。
- (2) オリンピックやパラリンピックの価値や歴史、文化的意義について、必要な情報を比較したり、分析したりしてまとめた考えを説明することができるようにする。
- (3) オリンピックやパラリンピックの価値や歴史、文化的意義について、言ったり、書き出したりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
○オリンピックやパラリンピックの価値や歴史、文化的意義について、意見を交換したり、自分の考えを発表したりするなどの活動を通して、学習に自主的に取り組もうとしている。	○オリンピックやパラリンピックの価値や歴史、文化的意義について、必要な情報を比較したり、分析したりしてまとめた考えを説明している。	○オリンピックやパラリンピックの価値や歴史、文化的意義について理解し、書き出したり、発表したりしている。

4 単元について

本単元は、高等学校学習指導要領解説保健体育編 科目「体育」H 体育理論の1のウ「オリンピックムーブメントとドーピング」に準拠しつつ、導入では、現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること、その代表的なものにオリンピック・ムーブメントがあり、その目的は、オリンピック競技大会を通じて、人々の友好を深め世界平和に貢献しようとするものであることを理解させる。また、今回は「パラリンピック」にまで内容を広げ、パラリンピックの価値やパラリンピックムーブメントについても理解させる。

東京2020大会への参画意識を高めるとともに、共生社会の実現や多様性を認めるために必要な資質を育む工夫を含め単元を計画する。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 視点1 「オリンピック・パラリンピックへの参画意識を高める工夫」

ア 科目の発展的学習

本単元は、H 体育理論1のウ【オリンピックムーブメントとドーピング】である。その学習内容に加え、「パラリンピックムーブメント」の内容を扱うことは、オリンピック・パラリンピックが単一のスポーツ大会にとどまらず、人々の友好を深め世界平和に貢献しようとするものであることの理解につながる。そして、オリンピックに比べ、パラリンピックに対する興味・関心が低い生徒の価値観の変容につながる。

(2) 視点2 『ボランティアマインド・障害者理解』の資質を育むための工夫

ア 三つの観点から迫る課題解決策

パラリンピアンが感じている現状と課題を知るとともに、その解決策について今の自分を取り巻く環境を踏まえながら考えていくことが共生社会を実現していこうとするために必要である。その解決策を漠然と考えるのではなく、IPCアクセシビリティガイドに記載されている内容を基に、「公平」「尊厳」「機能性」の三つの観点から迫るようにした。そうすることで、課題が様々な要因によって起こっていることを知り、多面的な見方をすることの重要性に気付かせたい。

6 指導と評価の計画（全3時間）

時	学習活動	評価規準
＜オリンピック・パラリンピックの価値学習を理解する＞（習得）		
1	①オリンピック・オリンピックムーブメント・パラリンピックムーブメントについて知る。 ②「オリンピック三つの価値」「パラリンピック四つの価値」を理解する。 ③オリンピックムーブメント・パラリンピックムーブメントとドーピングについて知る。 ④オリンピックの逸話「友情のメダル」について、グループ内で対話的な学習を行う。 ⑤上記学習を踏まえ、改めてオリンピックやパラリンピックに対する意識や価値観の変容を自己確認する。	①オリンピック・パラリンピックムーブメントの定義を知り、逸話などを踏まえ意見交換や課題解決学習などに主体的に取り組もうとしている。（関・意・態） ②オリンピックやパラリンピックの価値について、理解したことを書き出したり、発表したりしている。（知・理）
＜パラリンピアンと対話的に学習を進め、課題の解決策を考える＞（活用）		
2 （本時）	①パラリンピアンが感じている、パラリンピック競技の課題を知り、「公平」「尊厳」「機能性」の三観点到に沿って理解する。 ②パラリンピック競技を取り巻く環境を踏まえ、解決策や今後の在り方について、どのような取組ができるか高校生段階の視点で考える。 ③上記の内容について、様々な要因の課題があることを踏まえながら、グループ内で対話的な学習を行う。そして、多面的に問題を捉える重要性に気づき、多様性を認めるために必要な資質を育む。	①パラリンピックムーブメントを踏まえ、障害者スポーツの価値や意義、パラリンピアンが感じている競技の現状と課題を理解し、書き出したり、発表したりしている。（知・理） ②理解した現状と課題について、三観点到に沿って理解し、解決策や今後の在り方をまとめた自分の考えを説明している。（思・判）
＜東京2020大会後のレガシーとなるような解決策を考え、共生社会の実現につなげる＞（探究）		
3	①既習内容から、東京2020大会後のレガシーとなるような解決策を考え、主体的にどのように関わることができるか、イメージマップを作成する。 ②オリンピックの理念に基づいて、共生社会を目指した自分の生き方や行動変容について考える。 ③パラリンピックムーブメントに基づいて、『障害者理解』の実践を、自分自身がどのように行うかを考える。 ④東京2020大会に参画する意義や価値観が、どのように変容したか振り返る。	①パラリンピアンが感じている現状と課題から、東京2020大会後のレガシーとなるような解決策を考え、共生社会の実現につなげるために、必要な情報を比較したり、分析したりしてまとめた考えを説明している。（思・判）

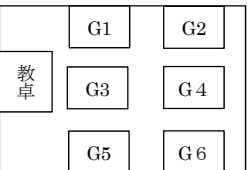
7 本時の指導（3時間中2時間目）

(1) 本時の目標

ア パラリンピックムーブメントを踏まえ、障害者スポーツの価値や意義、パラリンピアンが感じている競技の現状と課題を理解する。（知識・理解）

イ 三観点に沿って理解した現状と課題について、グループ内での対話を通して、解決策や今後の在り方とともに、自分のできることを考える。（思考・判断）

(2) 本時の展開

	学習活動	●指導上の留意点◇評価規準（評価方法） ☆オリンピック・パラリンピック教育との関連
一斉	1 挨拶 2 本時の学習課題と学習内容の提示 学習課題1 「学ぶ（知る・調べる）」「みる」のアクションから、障害者スポーツの価値や意義、競技者が感じているタンデム競技の現状と課題を理解する。	●ゲストティーチャー(以下、「GT」と表記。)の紹介 ●学習課題を提示し、障害者理解の資質を育む動機付けをする。 ●机をグループにする。 ☆パラリンピアンをGTとして招く。 
グループ学習	3 ワークシートで既習した内容を振り返り、基礎知識を確認する。 ・手順1 今ある知識で解く。 ・手順2 資料を活用して解く。 ・手順3 グループで確認する。	●解答は、スライドを活用し解説する。 ●パラリンピックムーブメントについて復習を行う。
グループ学習	学習課題2 理解した現状と課題について、三観点に沿って、解決策や今後の在り方をまとめた自分の考えを説明する。 4 ワークシートを活用したり、GTの話を聞いたりして、三観点に沿って、タンデム競技の現状と課題について理解する。 5 現状と課題について、GTとの対話やグループでの共有を通して、課題解決に向けた自分の考えを構築したり、深めたりする。 ・手順1 ワークシートを用いて、解決策や今後の在り方を考える。 ・手順2 自分の考えを伝える。 ・手順3 GTからコメントをもらう。 ・手順4 自分の考えをグループで共有し、班ごとに意見を発表する。	◇パラリンピックムーブメントを踏まえ、障害者スポーツの価値や意義、パラリンピアンが感じている競技の現状と課題を理解し、書き出している。（観察・ワークシート）（知・理） ●GTを招くことが難しい場合には、図書資料を用意したり、パラリンピアンインタビュー等を活用したりする。 ◇理解した現状と課題について三観点に沿って、解決策や今後の在り方をまとめた自分の考えを説明している。（観察・ワークシート）（思・判） ☆多面的な見方と多様性を関連付ける。
一斉	6 次回の学習内容の予告 7 挨拶	●次回の学習内容を予告し、高校生段階で何ができるのかを考える動機付けをする。

8 考察

(1) 成果

「オリimpiズムとオリンピック・パラリンピックムーブメント」という内容に学習の幅を広げたことで、スポーツ志向とは違った角度から参画意識が高められた。

(2) 課題

パラスポーツについての学びを通して、「障害者理解」から「共生社会」の実現に向けた自分の生き方と関連付けて考えることは、一教科の単元計画では十分な時間配分が困難であった。今後、スポーツの価値理解についての系統的・横断的な指導計画について、更に検討していく必要がある。

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 基礎研究

ア 「ボランティアマインド」「障害者理解」の二つの資質を育成する意義

「ボランティアマインド」を「社会貢献の意欲」「他者を思いやる心」、「障害者理解」を「公平」「尊厳」「機能性」の観点で捉えた。このことで、二つの資質を育むことは全ての教育活動において、本教育と関連して行えることが示せた。また、これらの教育活動は多様性の理解などに通じ、共生社会の実現を目指すうえで優位性があることが明らかになった。

イ 12年間を見通した系統的な指導計画

「ボランティアマインド」「障害者理解」の資質を育むために、発達段階に応じた目指す児童・生徒の具体的な姿を明らかにできた。また、本教育と各教科の目標達成を両立して実践する系統的・横断的で12年間を見通した指導計画を作成することができた。

(2) 調査研究

ア オリンピック・パラリンピック教育に関する児童・生徒及び教員の意識調査

(ア) 多くの教員が、自校の特色を生かした独自の取組を実践していることが分かった。また、講演会などその年にのみ行われる活動が多いことが分かった。

(イ) 小学校1年生から高等学校3年生までの児童・生徒を対象に調査したことで、それぞれの年齢の意識・実態・傾向を示せた。

イ 「ボランティアマインド」「障害者理解」に関する児童・生徒及び教員の意識調査

「ボランティアマインド」「障害者理解」の資質を育むオリンピック・パラリンピック教育が、自尊感情の醸成や共生社会の実現につながる事が明らかになった。

(3) 授業研究

ア 重点的に育成する五つの資質のうち、各教科で扱いにくい「ボランティアマインド」と「障害者理解」を実践授業で実施することができた。

イ 各校種ごとではなく、異校種間での協議や授業検討を重ねることで、各校種の発達段階に合わせた指導法の工夫について考える契機となった

ウ 東京2020大会へ向けた授業提案とともに、選手の招へい等がなくとも本教育を実践できるように、系統的な指導計画を提案することができた。

エ これまで行われてきた教育活動に、本教育の目指す資質・能力を関連付けて実践するための方向性を明らかにした。

2 今後の課題

(1) 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校での児童・生徒の参画意識の高まりの見取り方について、研究を深めていく必要がある。

(2) 本教育の全校実施3年目で更に効果的な実践をしていくために、調査研究のアンケートの対象を都内各地区に広げて実施する必要がある。本教育の内容を都内各校へ広く周知しながら、より多くの児童・生徒に普及させていく必要がある。

平成 29 年度 教育研究員名簿

小・中・高・特合同・教育課題（オリンピック・パラリンピック教育）

○小学校

学 校 名	職 名	氏 名
港区立小中一貫教育校お台場学園港陽小学校	主幹教諭	◎ 富樫 学
江 東 区 立 第 五 砂 町 小 学 校	主幹教諭	深澤 嘉子
江 東 区 立 豊 洲 西 小 学 校	主任教諭	上條有香吏
世 田 谷 区 立 三 宿 中 学 校	主任教諭	廣瀬 光恵
世 田 谷 区 立 三 宿 中 学 校	主任教諭	小林 順子
渋谷区立富谷小学校	主任教諭	田村 圭佑
中野区立平和の森小学校	主任教諭	井出 隆章
豊島区立朋有小学校	主任教諭	宇田 和也
足立区立千寿本町小学校	主任教諭	播摩 靖文
八王子市立七国小学校	主任教諭	松井 健彦
調布市立飛田給小学校	主任教諭	高田 拓実
小平市立小平第十一小学校	主任教諭	豊田 剛志

○中学校

学 校 名	職 名	氏 名
中 央 区 立 晴 海 中 学 校	主任教諭	上田 純一
大 田 区 立 貝 塚 中 学 校	教 諭	○ 下田 雄大
足立区立千寿桜堤中学校	教 諭	中川 明彦

○高等学校・特別支援学校

学 校 名	職 名	氏 名
東 京 都 立 山 崎 高 等 学 校	主幹教諭	山下 剛
東 京 都 立 新 宿 山 吹 高 等 学 校	主任教諭	長屋 富美
東 京 都 立 美 原 高 等 学 校	主任教諭	猪原 令子
東 京 都 立 江 東 特 別 支 援 学 校	主任教諭	荒金 普玄
東 京 都 立 南 大 沢 学 園	主任教諭	松村 忠昭
東 京 都 立 第 三 商 業 高 等 学 校	教 諭	○ 桂 優子

◎世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 小宮山 詠美

平成 29 年度

教育研究員研究報告書
小・中・高・特 合同・教育課題
(オリンピック・パラリンピック教育)

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社